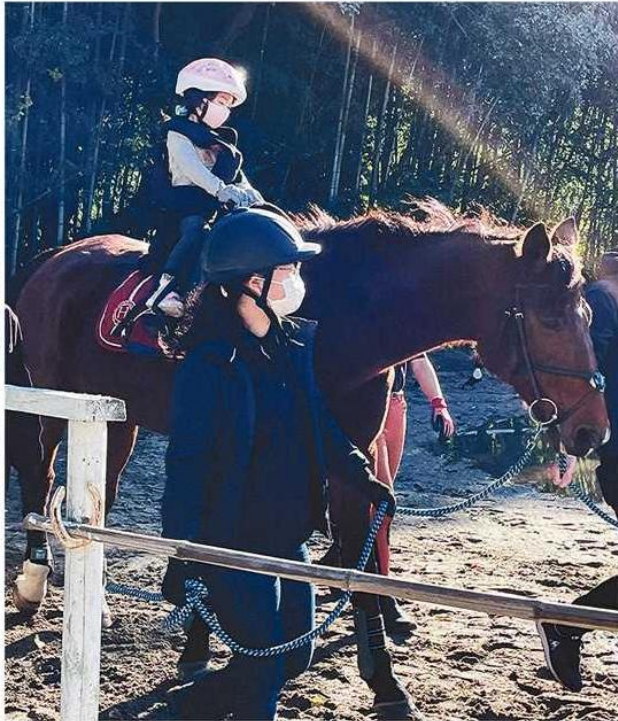


# 馬の魅力子どもたちへ

## 愛教大馬術部がCF ふれあい体験会 定期開催費募る

馬と馬術のすばらしさを多くの子どもたちに体感してもらおうと、刈谷市の愛知教育大馬術部が、飼育しているサラブレッドを中心にした「ふれあい体験会」を定期開催する費用をクラウドファンディング（CF）で募っている。

（神谷慶）



昨年11月の体験会で、部員（手前）と一緒に乗馬体験を楽しむ子ども。愛教大馬術部提供

馬術部は七十三年の歴史があり、愛教大で現在活動する部で最も歴史が古い。部員五人が構内の厩舎で元競走馬を含む六〜二十三歳の三頭を世話している。

二〇二〇年十二月から「ふれあい体験会」を不定

期で五回開催。延べ五十人以上の子どもと、その保護者が参加し、部員が馬の口元のロープを引く形の乗馬体験、馬にニンジンをおあげるふれ合い、競技用の障害物やバーを子ども自身で足で飛び越してもらおう体験、部の卒業生による「障害飛越」実演などを楽しんでもらってきた。「大きくて怖かった馬を、かわいいと感じた」「牧場でしかできないような乗馬体験を子どもにさせられてうれしい」と好評を博してきた。

より多くの子に参加してもらおうと、二カ月に一回程度の開催を目指しているが、課題は資金面。部員から集める部費と、大学からの補助や卒業生組織からの支援だけでは、全てをまかなえない。部員たちは主に土日のレース開催日に中京競馬場（豊明市）でアルバイトし、落馬後の馬をロー

プを張って止める「放馬止め」や厩舎の馬の確認作業に励み、アルバイト代を飼育費に充てている。土日に開く体験会を定期開催していくと両立が難しくなるため、初のCFを企画した。



CFへの協力を呼び掛ける鈴木将尉。いずれも刈谷市の愛知教育大で

入部するまで馬術は未経験だった二年生の鈴木拓海（主将）は「手綱や足でやりとりし、その通りに馬が動いてくれると『コミュニケーション』がとれた」と感動できる」と語る。「幼少期から馬とふれ合う体験をすることで、生き物に興味を深める機会をつくりたい」と検索。